

## 令和3年度 大淀川学識者懇談会資料

おおよど

# 大淀川総合水系 環境整備事業

- ① 事業採択後3年経過して未着工の事業
- ② 事業採択後5年経過して継続中の事業
- ③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後3年経過した事業
- ④ 再評価実施後5年経過した事業
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業



# 1. 大淀川流域の概要〔大淀川の概要と特徴〕

## 大淀川流域概要図



## ■各区間の特徴

### <本川上流部>

- ・高水敷は一部**牧草地**として利用され、草原性の植生が色濃い。
- ・カヌー等の**水面利用**をはじめ、「川の駅」では**スポーツや憩いの場**として盛んに利用されている。

### <本川中流部>

- ・中流狭窄部は河畔林が繁茂し、木陰の創出や鳥類のねぐらなどとして河川の生態系の維持に重要な役割を果たしている。

### <本川下流部>

- ・宮崎市街地を流れる川として、**河川公園、樹木、水辺が創り出す都市景観**を有している。
- ・高水敷の利用が盛んで、**市民スポーツ、休息、イベント**等に多く利用される。
- ・丸島周辺や津屋原沼にコアマモが生息し、アカメの稚魚、幼魚をはじめスズキ等の生息場となっている。
- ・河口付近は、アカメの生息地として全国的に有名。

### <支川本庄川>

- ・上流域に日本有数の**原生の照葉樹林帯**を抱え、豊かな自然の生態系が形成されている。
- ・大淀川の合流地点では、河跡湖やワンドなどの止水域が形成され、植物の**ミズキンバイやツクシイバラ**等の優れた水辺の植生環境を有している。

## ■大淀川の概要

- ・流域面積 : 2,230km<sup>2</sup>
- ・幹川流路延長 : 107.0km (九州4位)
- ・流域内人口 : 約60万人 (平成22年国勢調査)
- ・流域市町村 : 6市6町1村

# 1. 大淀川流域の概要〔大淀川の利用状況〕

## ＜大淀川の利用状況＞

- ◆ 大淀川は、散策、釣り、カヌー、高水敷での野球、サッカー等のスポーツや熱気球大会、自然観察、大淀川納涼花火大会などの各種イベント等に利用され、また上流域では農業(畜産)の放草地としての利用など多面的に利活用が行われている。
- ◆ 河川を**環境学習、自然体験の場**として位置づけ、利活用のニーズが高まっている。
- ◆ 大淀川流域では、7月の河川愛護月間には市民参加による清掃活動「**大淀川クリーンアップ運動**」が行われている。



# 1. 大淀川流域の概要〔大淀川水系の目標〕

## ＜河川環境の整備と保全に関する目標＞（大淀川水系河川整備計画<sup>（平成30年6月変更）</sup> 抜粋）

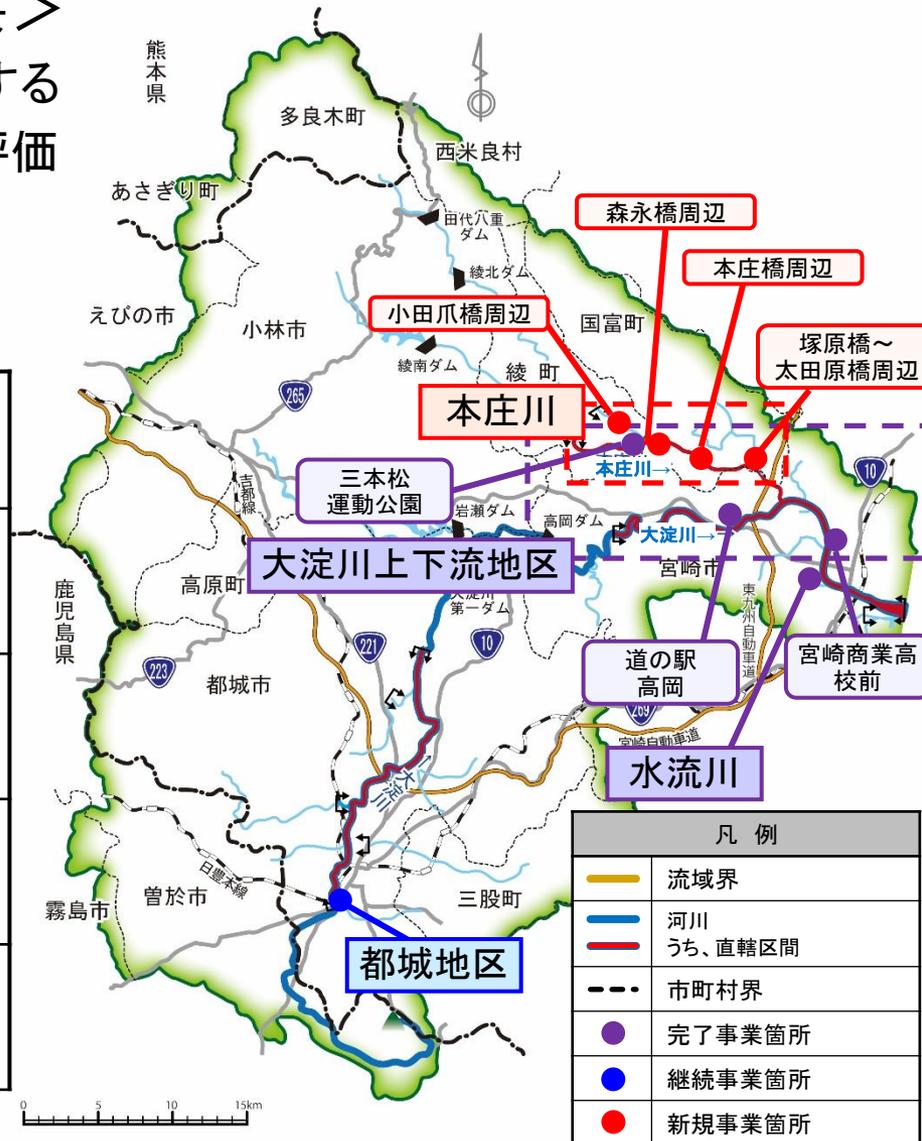
- ◆河川環境の整備と保全に関しては、流域における多様で豊かな自然環境の保全・創出を図るとともに、大淀川の歴史・文化等の地域特性や観光資源として活用されていることを踏まえ、良好な河川景観の維持・形成を図り、流域の財産として次世代に引き継げるよう努めます。
- ◆多様な動植物が生息・生育・繁殖する環境については、生物の生活史を支える環境を確保できるように良好な自然環境の保全・創出に努めます。
- ◆水質については、BOD75%値で見ると、近年は環境基準を概ね満足しており、今後もその維持に努めます
- ◆良好な景観の維持・形成については、上流部の都城盆地や下流部の宮崎平野に見られる都市空間等に潤いを与える河川景観、中流部に見られる河畔林と瀬・淵が連続する美しい溪流景観等の維持・形成に努めます。また、本計画や地方公共団体の景観計画との整合を図り、沿川の土地利用と調和した良好な水辺景観の維持・形成に努めます。
- ◆人と河川の豊かなふれあいの場の確保については、地域と水辺の一体化を目指した人と河川の豊かな触れ合いの場の整備と保全に努めます。

# 1. 大淀川流域の概要〔大淀川総合水系環境整備事業の概要〕

## ＜事業評価(再評価)対象事業の概要＞

事業継続中の都城地区と今回新たに整備する予定の本庄川の水辺整備について、事業評価(再評価)に諮るものである。

事業名	区分	箇所名	事業期間	備考
大淀川総合水系環境整備事業	水辺整備	おおよどかわじょうかりゅう 大淀川上下流地区	平成19年度～平成21年度	完了
		みやこのじょう 都城地区	平成28年度～令和8年度	継続
		ほんじょう 本庄川	令和4年度～令和13年度	新規
水環境整備		つるがわ 水流川	平成8年度～平成27年度	完了



## 2. 都城地区（水辺整備）の概要〔継続箇所〕

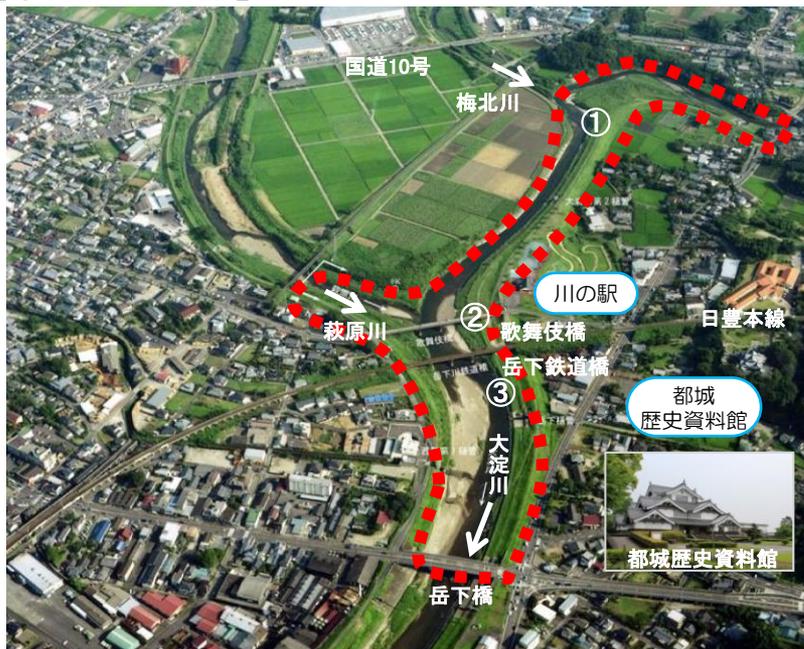
### < 継続箇所（都城地区） >

#### 1) 事業の必要性

◆大淀川河畔にある「川の駅」周辺地域は、都城市の「都市計画マスタープラン」等において、大淀川の良好な自然環境や周辺の歴史・文化資源を活かしたまちづくりを進めていくことが位置付けられているが、「川の駅公園」が賑わっている一方で、隣接する大淀川では草本の繁茂や河川敷から水際への落差などにより安全にカヌー利用や親水利用がしにくい状況である。そのため、川の駅利用者などから、大淀川と一体となった利用が望まれている。

◆都城歴史資料館等の地域の観光資源と一体となり、流下能力向上等の取り組みにあわせた河川空間を整備することで、地域の活性化や安全安心に資するとともに、河川巡視や河川管理の円滑化、河川利用の安全性の向上を図ることが可能となる。

#### 【事業計画範囲】



#### 【現地の状況】

##### ①梅北川合流地点



①平坦でなく雑草が生い茂っており、利用が困難な箇所があったが、高水敷整正等により、利用が可能になった。

##### ③大淀川河川敷



③岳下鉄道橋より下流側は通路が途切れ、移動できない。

##### ②川の駅公園の前面



②水際に草が生い茂り水辺に近づきにくい箇所がある。

# 2. 都城地区(水辺整備)の概要〔継続箇所〕

## 2) 事業の概要・目的

◆大淀川と「川の駅」の周辺の魅力を活かした地域活性化、様々な世代が集う水辺拠点を創造し地域交流の促進を図るとともに、河川利用者の安全性の向上、河川巡視・河川管理の円滑化を図るため、高水敷整正、管理用通路、坂路・階段、護岸を整備する。

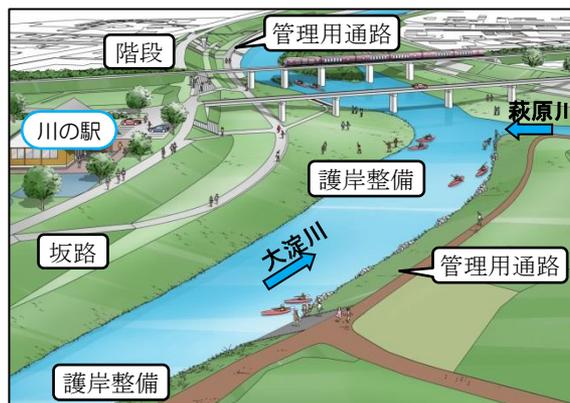
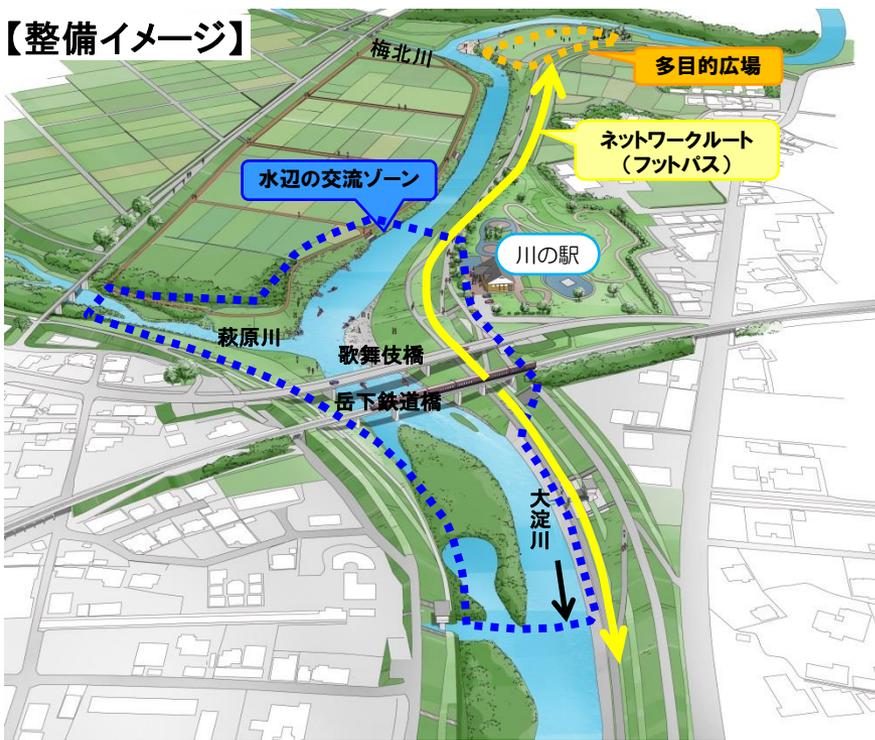
### 【概要】

位置	大淀川 77k800～78k800付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	高水敷整正、管理用通路、坂路・階段、護岸整備、モニタリング調査
事業費	6.2億円
整備完了年	令和3年度
事業期間	平成28年度～令和8年度(予定)

### 【工程表】

工種	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
高水敷整正		■	■			■					
護岸工	■		■	■		■					
階段工・付帯工			■	■		■					
管理用通路			■	■		■					
測量設計	■	■	■	■	■	■	■				
モニタリング調査								■	■	■	■
旧橋撤去(歌舞伎橋)				■	■						

### 【整備イメージ】



水辺の交流ゾーン・ネットワークルート(川の駅周辺)

# 2. 都城地区(水辺整備)の概要〔継続箇所〕

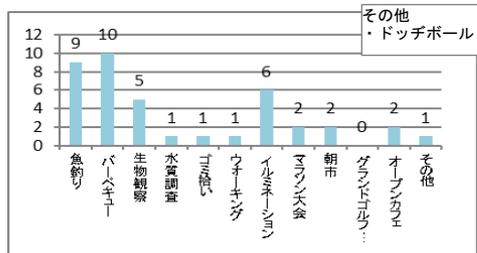
## 3) 事業の投資効果

- ◆護岸や高水敷、管理用通路が整備され、河川に対する利活用のニーズが多様化している。このため、基盤整備の要望からベンチなどを要望する声に変化している。
- ◆多目的広場は、以前は地域の「運動会」や「遠足」等に使われていたこともあり、「かわまちづくり検討会」においても、その復活を望む声があがっていた。多目的広場が整備されたことで、「運動会」や「遠足」といった地域行事による活用が期待される。
- ◆水辺の交流ゾーンでは、令和3年度中に整備完了予定であり、「川の駅」と連携して多くの人で賑わうことが期待できる。
- ◆また、維持管理においても、公民館と都城市との管理委託の締結を進める等、地域住民の協力体制の下、継続して実施している。

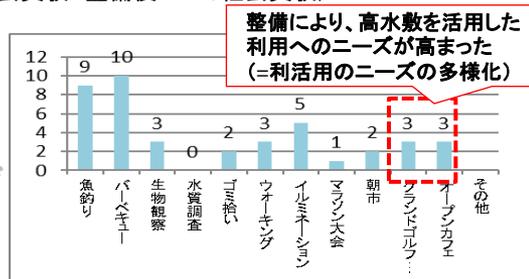
### 【利用者の声の変化】

社会実験におけるアンケート結果  
(整備前: H30.9社会実験 整備後: R1.9社会実験)

Q. 今後参加したいこと



整備前 (H30.9)

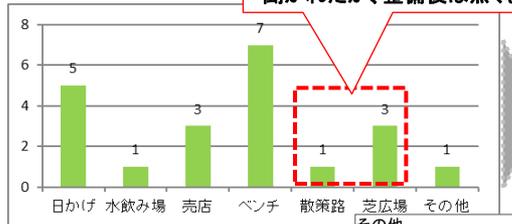


整備後 (R1.9)

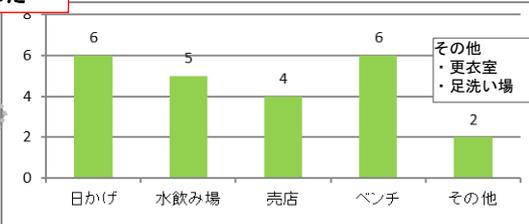
整備により、高水敷を活用した利用へのニーズが高まった (=利活用のニーズの多様化)

Q. あったらしいもの

基盤整備を求める声は、整備前は聞かれたが、整備後は無くなった



整備前 (H30.9)



整備後 (R1.9)

### 【利用状況の変化】



グラウンドゴルフ(高水敷の利用) 水遊びや散策(日常利用) 砂州にハンモック  
階段や坂路、高水敷、管理用通路等の整備により、安全で多様な利用が可能になった。  
歌舞伎橋の付替えにより高水敷及び砂州が広く利用できるようになった。

### 【水辺への近づきやすさの変化】



カヌー 水生生物調査や水遊び(イベント) 水遊び(地元の中学生)  
坂路や護岸整備により、安全に水辺に近づけるようになった

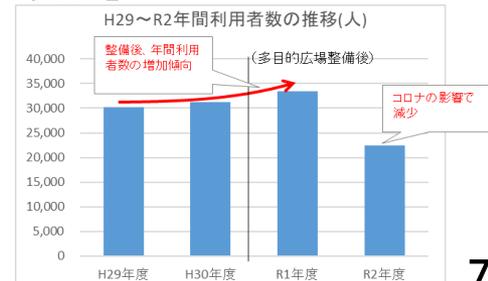
### 【維持管理を地域住民との協力体制の下実施】



地域住民による多目的広場の除草

### 【川の駅利用者数の変化】

R2年度は、新型コロナウイルスの影響により年間利用者数は減少したが、多目的広場整備後のR1年度は、整備前に比べ年間利用者数の増加がみられる。



# 3. 本庄川(水辺整備)の概要〔新規箇所〕

## <新規箇所(本庄川)>

### 1) 事業の必要性

- ◆国富町及び綾町はともに、それぞれの総合計画やマスタープラン等において「自然との共生」を軸としたまちづくりを掲げており、河川空間を利用した水辺の自然環境の活用・保全に努めるとしている。
- ◆国富町・綾町は、平成27年3月に宮崎市と連携協約を締結し、連携中枢都市圏を形成、地域資源を活用した地域経済の裾野拡大や戦略的な観光施策等において連携し取り組んでいる。両町を流れる本庄川においても魅力ある河川空間を創出するとともに、観光資源を結ぶネットワークを形成し「観光客受入環境の充実」を諮る必要がある。
- ◆平成24年のユネスコエコパーク登録や、令和元年『国富SIC』の開通による交通アクセスの向上など、新たな観光振興の絶好の機会が訪れており、伝統漁法であるアバ漁や小田爪運動公園等の地域の観光資源を活用することで、さらなる河川利用者の増加が期待できる。
- ◆桜並木や季節の花の空間を創出し、軽トラ市等のイベント開催や、カヌーやオートキャンプ等の多様なメニューを用意することにより、自然体験等の体験型観光を楽しめるような水辺空間を活かしたまちづくりのためには、堤防から高水敷、高水敷と水辺へアクセスができ、また、安全で安心にかつ快適に利用できる箇所への整備が必要である。

### 【事業計画範囲】



### 【現地の状況】

#### ①塚原橋～太田原橋周辺



水際に草木が繁茂しており、また段差もあるため、水辺へ近づくことが困難。

#### ②小田爪橋周辺

##### 【小田爪橋上流】



高水敷に広場があるが、周囲が雑草に覆われ、凸凹があるため、利用が少ない。

##### 【小田爪橋下流】



水際に草木が繁茂している。段差がある。

##### 【小田爪橋下流】



周囲が雑草に覆われ、凸凹がある。堤防から水際までのアクセス路がない。

# 3. 本庄川(水辺整備)の概要〔新規箇所〕

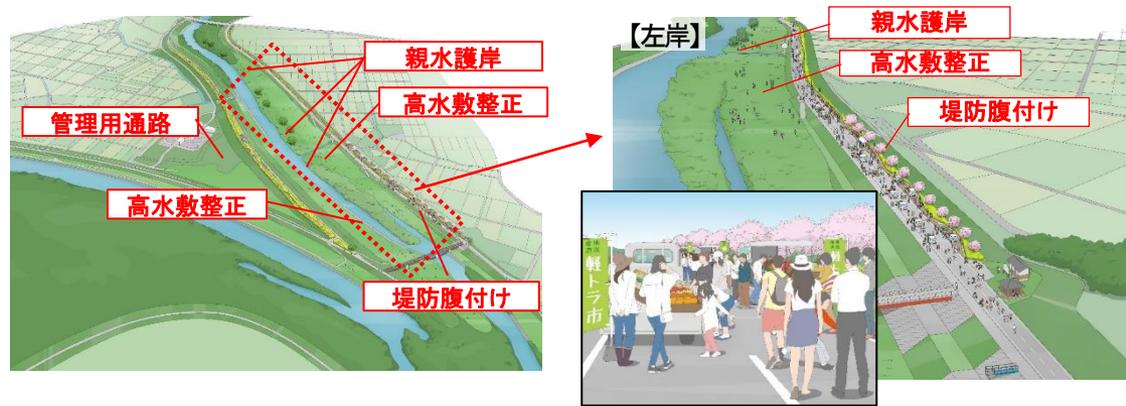
## 2) 事業の概要・目的

◆国富町と綾町の両町が連携し、両町の持つ地域資源を活かし、魅力ある水辺空間を創出し、地域の魅力の向上、観光振興の促進を図るとともに、河川利用者の増加及び安全性・利便性の向上、さらに堤防の強化、流下阻害の軽減のため、高水敷整正、堤防腹付け、緩傾斜化、管理用通路、坂路・階段、護岸を整備する。

### 【概要】

位置	深年川0k200～1k400(大田原橋付近) 本庄川6k800～7k000(本庄橋付近) 本庄川10k400～10k600(森永橋付近) 綾北川13k400～15k400(小田爪橋付近)
事業区分	水辺整備
主な整備内容	坂路・階段、親水護岸、高水敷整正、緩傾斜化、管理用通路、堤防腹付け、モニタリング調査
事業費	6.6億円
整備完了年	令和8年度
事業期間	令和4年度～令和13年度(予定)

### 【整備イメージ】



塚原橋～太田原橋周辺(国富町)

### 【工程表】

工種	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
坂路	■	■								
階段		■								
親水護岸		■	■	■						
高水敷整正	■		■	■						
緩傾斜化	■									
管理用通路				■	■					
堤防腹付け	■	■	■							
モニタリング						■	■	■	■	■



小田爪橋周辺(綾町)

# 3. 本庄川の概要〔新規箇所〕

## 3) 事業の推進体制

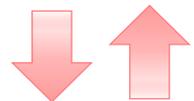
- ◆令和2年度に、「本庄川かわまちづくり計画」の策定に先立ち、地域住民、商工会、自治会、漁業組合、学校関係者、国富町、綾町、国土交通省等から構成された「本庄川かわまちづくり協議会」が設立され、「本庄かわまちづくり計画」を策定し、令和3年8月に登録された。
- ◆また、実戦部隊となる「本庄川かわまちづくり推進部会」も設立され、整備内容や利活用・維持管理計画等について活発な議論を行うとともに、対象箇所において、社会実験を企画・実施している。
- ◆また、地域住民による一斉清掃等、日常的な維持管理は利用者が行う原則のもと利用者ルールの設定を行い、継続的な維持管理体制の検討を行う予定である。

本庄川かわまちづくり協議会

内容: 事業のおおむねの方向性、推進部会にて具体化された計画の確認、チェック等

協議会の構成: 自治体、国土交通省、地域住民 等

計画の確認・承認



計画（整備・利活用・維持管理）の作成・提案

本庄川かわまちづくり推進部会

内容: 整備、利活用、維持管理の方策について実際に地域で具体化できるように検討を行い、協議会に提案する。

協議会の構成: 地域住民、活動団体 等

国富町推進部会

綾町推進部会

かわまちづくり実施体制



「本庄川かわまちづくり協議会」  
開催状況



照葉樹林マラソン試走会と植栽イベント(綾町)



「本庄川かわまちづくり推進部会」  
開催状況



こいのぼりイベント  
(国富町)



花壇設置  
(国富町)

# 4. 前回評価時からの変化

## ※本庄川水辺整備の新規追加

- 国富町では、きれいな一級河川である本庄川を次世代に伝える自然環境の一つとして保全活動を行うとともに、「河川敷を活用したレクリエーション機能の充実」に取り組んでいる。
  - 綾町でも河川空間を利用した水辺の自然環境の活用・保全に取り組んでおり、「国富SIC」の開通、綾ユネスコパーク登録を機に、両町が連携し更なる地域活性化に向け、「かわまちづくり支援事業」を活用し、国土交通省と一体となって推進することとしている。
- このため、今回本庄川の水辺整備が新規事業として追加された(事業費6.6億円)。

<前回評価時の整備予定箇所>



<今回評価時の整備予定箇所>



■ 継続箇所

■ 新規箇所

# 5. 前回評価時からの変化

項目	前回評価時 (令和2年度)	今回評価時 (令和3年度)	変更理由
総事業費	<b>約18.4億円</b> 【水辺整備】 大淀川上下流地区 : 約 1.2億円 都城地区 : 約 6.2億円 【水環境整備】 水流川 : 約11.0億円	<b>約25.0億円</b> 【水辺整備】 大淀川上下流地区 : 約 1.2億円 都城地区 : 約 6.2億円 本庄川 : 約 6.6億円 【水環境整備】 水流川 : 約11.0億円	・水辺整備事業(本庄川)の 新規追加
事業完了年	令和8年度	令和13年度	
B/C	11.8	10.4	
B(便益)	379.3億円	429.1億円	
C(費用)	32.2億円	41.3億円	

※B/Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払い意思額と便益が及ぶ世帯数を積算し、これを社会的割引率を用いて現在価値に換算し完成後50年分を足し合わせるにより算出する。費用は事業費と完成後50年分の維持管理費を社会的割引率等を用いて現在価値に換算し足し合わせるにより算出する。

# 6. 事業の投資効果〔費用対効果等〕

## <費用対効果等>

	事業費	主な整備内容	便益(B)	費用(C)	B/C
全事業	25.0億円	—	359.8億円	41.3億円	8.7
完了事業	12.1億円	—	228.8億円	27.1億円	8.4
水辺整備	1.2億円	階段護岸等			
大淀川 上下流地区					
水環境	11.0億円	取水施設、送水管、モニタリング等、 拠点整備、低水路整備			
水流川					
継続事業	6.2億円	—	63.5億円	7.1億円	9.0
水辺整備	6.2億円	高水敷整正、管理用通路、坂路・階段、 護岸整備、モニタリング調査	63.5億円	7.1億円	9.0
都城地区					
新規事業	6.6億円	—	67.5億円	7.2億円	9.4
水辺整備	6.6億円	高水敷整正、管理用通路、坂路・階段、親水護岸、 緩傾斜化、堤防腹付け、モニタリング調査	67.5億円	7.2億円	9.4
本庄川					
残事業			78.0億円	7.3億円	10.6

※都城地区はモニタリングのみであり、残事業の便益は見込んでいない。

	アンケート 実施年度	アンケート 配布数	有効 回答数	集計範囲	集計 世帯数	支払い意思額 (円/月・世帯)
大淀川上下流地区	平成24年度	1,500	227	半径10km圏内	180,838(～R8) 113,795(R9～)	375
水流川	平成28年度	1,500	356	半径2km圏内	38,836	416
都城地区	平成26年度	2,000	218	半径10km圏内	86,376	277
本庄川	令和3年度	2,000	311	半径10km圏内	77,018(～R41) 144,061(R42～)	402

# 7. 事業の投資効果〔まとめ〕

## 《効果名》

## 【効果の概要】

① CVM手法による便益の算出：約429.1億円

（良好な景観の形成、人と自然の豊かな触れ合い活動の場の確保、河川空間利用の増進等）

② 地域資源を活かした教育効果：大淀川及び本庄川の豊かな自然環境を活かした体験イベントの実施、地域が主体となって大淀川と地域資源（都城歴史資料館、国富アバ漁、綾小田爪運動公園等）を一体的に活用することによる地域への愛着の醸成。 P7、P8

③ 地域のにぎわいの創出：水辺イベントの開催やカヌー・カヤック等水辺のアクティビティの場としての活用。  
既存イベント（照葉樹林マラソン等）や地域活動（植樹等）の水平展開による地域活性化の増進。 P9、P10

④ 治水安全性の向上：河川巡視や管理の円滑化、河川利用者の安全性向上。  
側帯の整備による堤防の強化、親水護岸整備や河岸の緩傾斜整備における樹木伐採による治水安全性の向上。 P7、P9

⑤ 良好な自然環境の保全：地域が主体となった河川周辺の除草・清掃活動。 P7、P10

⑥ 費用対効果分析（算定に用いた効果①）

全体事業（B/C）： 10.4

継続事業（B/C）： 9.9

## 8. 事業の進捗の見込み・コスト縮減や事業手法、施設規模等の見直しの可能性

### (1) 今後の事業展開

- ◆都城地区においては、今後も地域住民や関係団体、行政機関等と協力して事業を進め、平成28年度に事業に着手し、令和3年度に整備を完成させる予定である。令和4年度以降はモニタリング調査等を実施し、令和8年度に完了予定である。
- ◆本庄川においては、**令和4年度から整備に着手し、令和8年度に整備を完成させる予定である。令和9年度以降はモニタリング調査等を実施し、令和13年度に完了予定である。**

### (2) 今後の事業の進捗の見込み

- ◆都城地区では、平成27年度より「みやこんじょかわまち会議」を立ち上げ、整備内容や利活用・維持管理計画等について活発な議論を行っており、地域の協力体制が確立されており、今後も順調な事業進捗が見込まれる。
- ◆本庄川では、事業進捗に支障となる課題等はなく、令和2年度に地域住民、地元自治体(国富町、綾町)、河川管理者(国土交通省)が参加する「本庄川かわまちづくり協議会」を設立、また実践組織となる「国富町推進部会」及び「綾町推進部会」を立ち上げ、整備内容や利活用・維持管理計画等について活発な議論を行っており、**地域の協力体制が確立されており、今後も順調な事業進捗が見込まれる。**

### (3) 事業手法、施設規模等の見直しの可能性

- ◆都城地区の整備内容については、計画段階から「都城かわまちづくり検討会」において、議論を重ねた上で、河川管理面、河川利用面を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が最適と考えている。
- ◆本庄川の整備内容については、「本庄川かわまちづくり協議会」において、地域住民の要望や利活用の現状等を把握し、今後の河川の利活用や維持管理等の議論を重ねた上での整備内容となっており、現計画が最適と考えている。

### (4) コスト縮減の方策

- ◆近年の技術開発の進展に伴う新工法等の採用による**新たなコスト縮減の可能性等を探りながら、事業を進めていく方針である。**

# 9. 対応方針(原案)

- ◆本庄川については、水際へ安全に近づけるよう水辺整備を行うことにより、本庄川を軸とした地域の活性化、川遊び等のイベント活動の場・観光拠点の場を創出するとともに、河川空間の安全性の向上、河川管理の円滑化を図るため、階段・坂路、管理用通路、護岸の整備を行うものである。
- ◆本庄川では、沿川自治体である国富町と綾町が連携し、両町の自然環境や歴史・文化資源を活かしたまちづくりを進めており、令和3年8月「かわまちづくり計画」に登録された。
- ◆本庄川の沿川自治体である国富町と綾町及び国土交通省が参加する「本庄川かわまちづくり協議会」を継続的に開催し、また実践組織となる「国富町推進部会」「綾町推進部会」が設置されているとともに、地域住民を主体とした清掃活動を実施するなど、地域の協力体制が整っている。
- ◆都城地区については、継続して地域住民からなる「みやこんじょかわまち会議」において、利活用、維持管理の手法などについて協議を行うとともに、地元ボランティアによる清掃活動の実施など、事業への理解と地域の協力体制が整っている。
- ◆費用対効果についても確保されている事業である。

以上より、引き続き事業を継続することとしたい。